



小学校高学年《5・6年生》のみなさんへ

夏休みおすすめ本リスト

登別市立図書館 [2016年版]

	書名 作者名 出版社	内容
絵本	「かき氷 天然氷をつくる」  細島 雅代 写真 伊地知 英信 文 岩崎書店	埼玉県で明治時代から続く、氷屋さん一家がつくる天然氷があります。 真夏にそれを、おいしいかき氷として食べる事ができるのは、真冬にひみつの技術で作るためです。 貴重な氷づくりを、写真でしようかいています。
絵本	「最初の質問」  長田 弘 詩 いせ ひでこ 絵 講談社	詩人・長田弘の代表作に、画家のいせひでこが、美しい絵をつけた一冊です。 「今日、あなたは空を見上げましたか。」 「空は遠かったですか、近かったですか。」 くり返される問いかけは、何気ない日常の中のきれいな景色を、思い出させてくれるでしょう。
図書	「ふしぎ駄菓子屋銭天堂」  廣嶋 玲子 作 jyajya 絵 偕成社	駄菓子屋「銭天堂」は、幸せをもとめる幸運な人だけが、見つけることのできるお店です。 色とりどりの駄菓子を手にしたお客さんには、時に人生も変わるほどの不思議な出来事が起こります。 さて、今日の幸運なお客さんは・・・？
図書	「ぼくたちはなぜ、学校へ行くのか。」  マララ・ユスフザイ 述 石井 光太 文 ポプラ社 <input type="checkbox"/>	日本の子どもは、教育を受ける事ができます。でも、15才のマララ・ユスフザイさんの母国パキスタンでは、学校へ行って勉強をしたいと主張し続けただけで、頭をうたれました。 マララさんの国際連合で行った演説を元に、子どもが学校へ通うことの意味を考えます。
図書	「べんり屋、寺岡の夏。」  中山 聖子 作 文研出版 <input type="checkbox"/>	美舟(みふね)の家は、「べんり屋」という家業を営んでいます。 売れない画家のお父さんを見てると、夢を大きく持つよりも、コツコツ働いて地道に生きていこうと美舟は決めていました。 でも、「べんり屋」へ仕事をたのみに来る人々には、さまざまな形の夢や幸せがありました。

	書名 作者名 出版社	内容
図書	「十五少年漂流記」  ひょうりゅうき 21世紀版少年少女 世界文学館 19 ジュール=ベルヌ 作 那須 辰造 訳 講談社	15人の少年たちを乗せた船が、大嵐で漂流し岸辺にたどりつきました。 少年たちが、どこの島かもわからない土地で工夫を重ね、知識を生かしながら苦難を乗り越えていく、試練と成長の物語です。
図書	「100年後の水を守る」  橋本 淳司 著 文研出版	水は無限にあるわけではなく、水を末永く使っていくためには、1人1人が未来の水を守ることを、考えていかなければなりません。 水の問題をせんもんしているジャーナリストが、20年間の活動をしようかいています。
図書	「あらしのよるに 完全版」  きむら ゆういち 作 あべ 弘士 絵 講談社	あらしの夜に、こわれかけた真っ暗な小屋で、相手がどんな生き物かも判らずに仲良くなったガブとメイは、すっかり意気投合して、次の日にまた会う約束をします。 合言葉は、「あらしのよるに」・・・。 シリーズ7冊分が一冊で読める「完全版」です。
図書	「さくら猫と生きる」  今西 乃子 著 浜田 一男 写真 ポプラ社	これいじょう不幸な命を増やさないための手術をした印として、耳先をサクラの花びらの形にカットされた野良猫を「さくら猫」といいます。 街から殺しよぶんを無くすために活動する、千葉県の猫ボランティアの人たちです。
図書	「真夏のオリオン」  福井 晴敏 文 網中 いづる 絵 講談社 <input type="checkbox"/>	戦争末期、日本のせんすいかんのかん長は、戦死した乗組員を海へ流すとき、「真夏のオリオン」と題された、1まいのがくふをたくしました。 どうして「相手は人間以下だ」とにくしみあい、戦わなければならなかったのでしょうか。